

地域における健康危機管理情報の共有 －新型インフルエンザとML運用－

○梅本 敦子, 飯尾 和巳, 平井 佳津, 西川 昇, 森岡 聖次 (湯浅保健所)
吉村 研 (有田医師会)

[はじめに] 2009年3月にメキシコ国ラ・グロリア村で発生したブタ由来の新型インフルエンザ (H1N1) は4月には合衆国、カナダへと拡大して、8月23日現在では世界で20万人を越える感染が確認され、死亡者も2,185人に達したと報じられた。南半球での季節性インフルエンザと複合した流行を経て、わが国でも季節性インフルエンザの流行期に向けた対応が議論されている。湯浅保健所では、新型インフルエンザの蔓延拡大を防止するため、4月27日から対応を継続しているが、地域の病院、医師会、歯科医師会、薬剤師会、消防、行政当局とのリアルタイムでの情報共有は重要であった。そこで、パソコンを活用したメーリング・リスト (ML) を構築し、運用中であるので報告する。

[方法] 対象地域は湯浅保健所圏域 (有田医療圏) である。発足時の参加者は、保健所2 (所長、担当)、振興局健康危機管理部局5、市町の保健部門4、同総務部門4、病院9、医師会7、歯科医師会1、薬剤師会1、消防3、の36人であり、オブザーバーとして県難病・感染症対策課からも4人の参加を得た。ML 開設の技術的な部分は共同研究者の吉村が主掌し、qq@arida-med.jp.org へ投稿すると、参加40人に同送されるシステムを設定した。迅速性を尊ぶことから、投稿内容は各投稿者の個人責任の範囲とし、組織を代表しての見解はML上では交換しないことを前提とした。MLは5月22日に運用が開始された。

[結果と考察] 表に開設後9月16日までに投稿された情報の内容を区分した。全87件あり、管内の状況報告はもとより、世界の感染状況、県内・県外の動きなども投稿されて

表 メーリング・リストに投稿された情報 (5月22日～9月16日)

区分	件数	発出者	内容
総 数	87(100%)	—	—
事務連絡	24(28)	参加者	着信連絡など
発熱外来等経過	7(8)	保健所	発熱外来、発熱相談の件数推移
管内情報	6(7)	参加者	管内の蔓延状況など
県内情報	11(13)	参加者	集団感染例など
県外情報	10(11)	参加者	流行県の紹介など
政府見解	6(7)	参加者	厚生労働省、文部科学省などの見解
疫学情報	15(17)	保健所	感染の世界動向、死亡率の推計など
意見交換	8(9)	参加者	防疫方法、新型の扱いなどのアイディア

注) ひとつの投稿に複数の内容を盛り込んだ投稿については、いずれか1内容を代表として扱っている。

いる。一般に ML は参加者の20%が投稿し、残り80%は読んでいるだけ (ROM) と言われている。今回の ML でも保健所側からの投稿が多い点は別にして、投稿者が拡大しない傾向は続いている。

ML の運用をどのような範囲で設定するかについては異論が多い。本県でも、和歌山市で発生したカレー毒物事件への対応から、医務課が管理する ML が発足していたが、現状では十全の機能はない。そこで今回は、湯浅保健所管内に限った ML として運用したが、範囲としては妥当であったと考えられる。また内容に関しては、正式・公式の文書通信は別途行ったため、自由な投稿が担保されることとなった。

[まとめ] 健康危機管理を目的にした湯浅保健所管内の ML は有用であった。今後も投稿者の自発的な発信を保障し、迅速な情報交換・共有のために活用されるべきである。